

第2章 将来都市像とまちづくりの基本目標

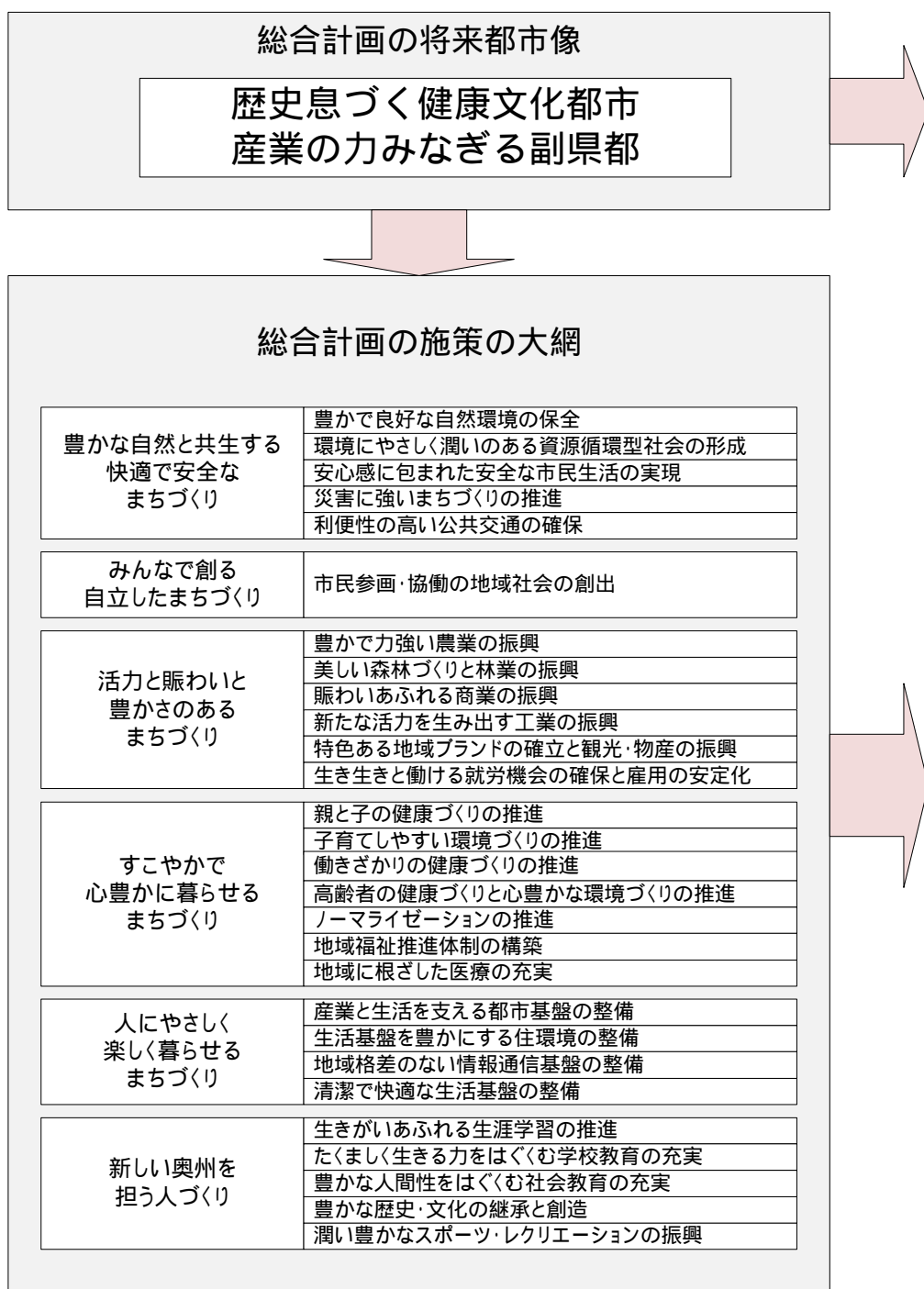
2.1 将来都市像

2.2 まちづくりの基本目標

第2章 将来都市像とまちづくりの基本目標

2.1 将来都市像

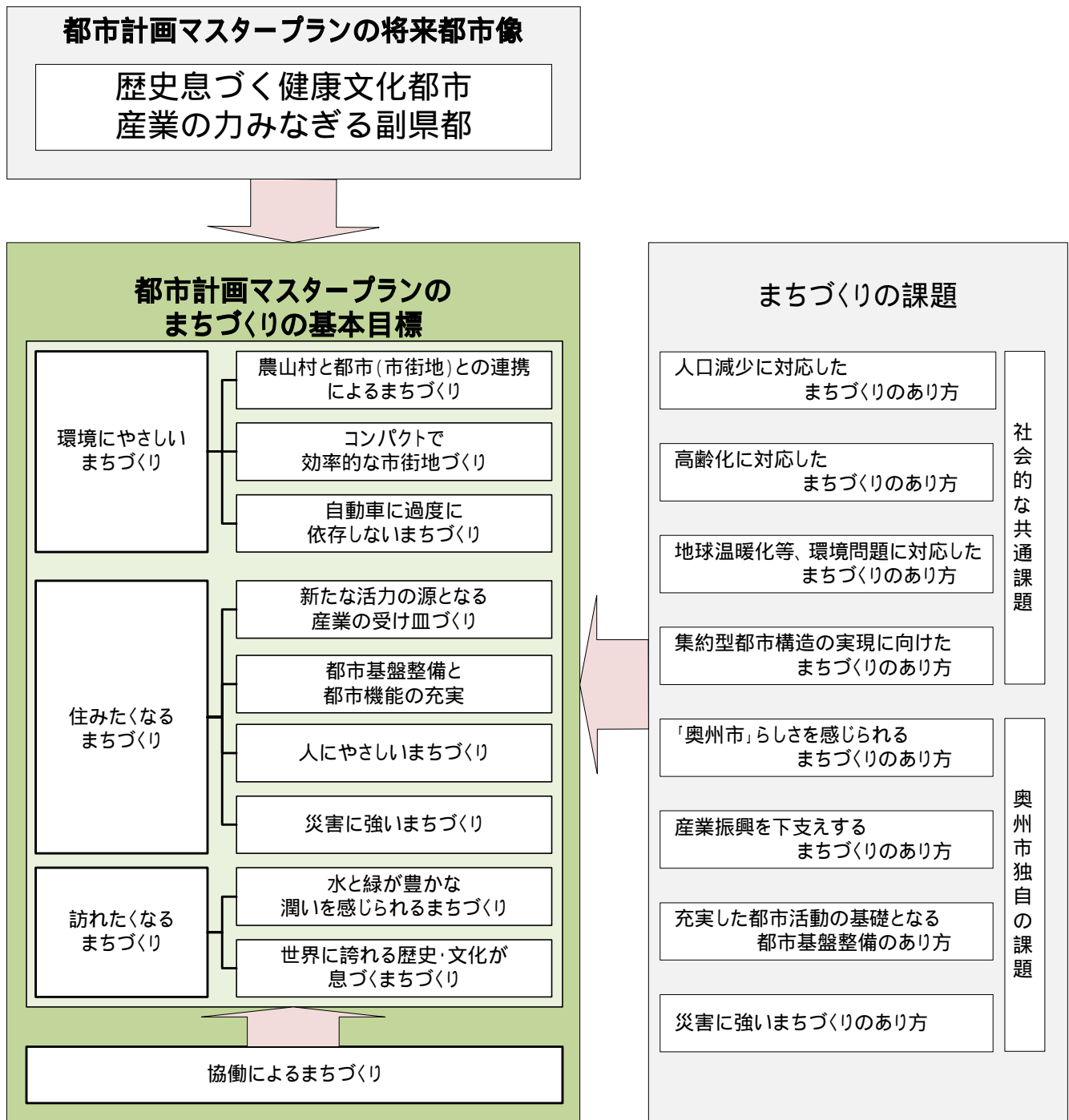
総合計画の将来都市像である「歴史息づく健康文化都市 産業の力みなぎる副県都」を本計画の目指すべき都市像として掲げます。



2.2 まちづくりの基本目標

「歴史息づく健康文化都市 産業の力みなぎる副県都」を実現するため、総合計画の施策の大綱とまちづくりの課題を踏まえた、まちづくりの基本目標を以下のとおり設定します。

「環境にやさしい」まちづくり、誰もが「住みたくなる」、「訪れたくなる」まちづくりを、市民、事業者、行政の「協働」により進めます。



(1) 環境にやさしいまちづくり

豊かな自然環境を支える農山村と都市との連携を強化するとともに、コンパクトで効率的な市街地づくりや自動車に過度に依存しないまちづくりを進め、地球環境にやさしい、持続可能なまちづくりを目指します。

農山村と都市（市街地）との連携によるまちづくり

農山村は、農林業の振興や緑豊かな環境の維持に重要な役割を果たしており、本市は、農山村と都市が互いに連携・補完しながら発展してきました。農山村においては、生活基盤の整備や公共交通ネットワークの充実、都市との交流拠点の整備等を進めるとともに、人口減少や高齢化が進むなかで自立した暮らしが可能となるシステムづくりを検討します。

また、奥州市ならではの二地域居住、田園居住のイメージを確立し、その実現に向けた取り組みを進めます。

コンパクトで効率的な市街地づくり

人口減少や高齢化、地球環境問題に対応するため、我が国では拡大型のまちづくりから集約型のまちづくりへ方向転換が進められています。

本市においても、無秩序な市街地の拡大を抑制し、既存の都市基盤を有効に活用したコンパクトで効率的な市街地づくりを進めます。

市街地内では、環境に配慮した開発の誘導、住宅・事業所・工場等における省エネルギー化や緑化の促進等に総合的に取り組みます。

また、市街地や集落を連絡する道路交通ネットワークの形成と充実を図り、都市の一体性の強化と回遊性の向上に努めます。

東北発コンパクトシティのイメージ



資料：東北発コンパクトシティのすすめ(東北地方整備局)

自動車に過度に依存しないまちづくり

主要道路の交通量や一人当たりの自動車保有台数は増加傾向にある一方、鉄道やバスの利用者は減少傾向にあります。

今後は、コンパクトな市街地づくりに併せて、歩道や自転車道の整備、公共交通の充実等、総合的な交通対策を進め、自動車に過度に依存しないまちづくりを進めます。

(2) 住みたくなるまちづくり

雇用の場の確保、都市基盤整備や都市機能の充実、人にやさしいまちづくり、災害対策等を進め、まちの魅力の向上を図り、誰もが住みたくなるまちづくりを目指します。

新たな活力の源となる産業の受け皿づくり

産業の集積、高度化や雇用機会の拡大に加え、新たな産業の創出に資する研究機関や国家プロジェクト等の誘致に努めるとともに、その受け皿となる都市基盤整備を進めます。

都市基盤整備と都市機能の充実

健康で文化的な都市生活や機能的な都市活動を確保するため、地域の実情に応じた道路、公園、下水道等の都市基盤整備や良好な住宅・宅地の供給を進めます。

また、拠点として位置づけたエリアを中心に、都市機能の強化・充実を図り、賑わいのあるまちづくりを進めます。特に、都市機能が集積し、多様な歴史・文化資源等が見られ、「まちの顔」として重要な役割を果たしてきた中心市街地は、活性化に向けた取り組みを進め、賑わいの再生を図ります。

人にやさしいまちづくり

誰もが安心して、いきいきと暮らせる、人にやさしい社会の実現を目指し、医療・福祉機能や公共交通の充実、バリアフリー化、安心して子育てできる環境の整備等を進めます。

災害に強いまちづくり

本市では、河川の氾濫等の自然災害に対する不安や緊急車両の通行が困難な狭隘道路の存在、高齢化に伴う防災組織の機能低下等の問題があり、その対策が求められています。

安全で安心な暮らしを確保するため、防災拠点の充実、行き止まり道路や狭隘区間の解消、防災・災害情報の提供等、災害対策に総合的に取り組み、災害に強いまちづくりを進めます。

(3) 訪れたいまちづくり

本市の特徴である水や緑、歴史・文化を活かした、観光基盤の整備・充実、印象に残る景観づくり、居心地の良い環境づくりやきめ細やかなサービスの提供を行い、本市を訪れる人が“もっと長く滞在したい”“また来たい”そして“住んでみたい”と思える、奥州市らしさが感じられ、もてなしの心があふれるまちづくりを目指します。

水と緑が豊かな潤いを感じられるまちづくり

本市は、大部分を森林、田園等が占める緑豊かな都市です。また、市域中央を南北に貫流する北上川を軸に数多くの河川や水路が流れ、各地域にはダムや湧水、滝等の特徴的な水辺が点在しています。

これらは、豊かな自然環境を形成し、人々の暮らしに様々な恵みをもたらしてきました。また、奥州市らしさを演出するうえでも重要な要素となっています。

森林、田園及び水辺を保全・活用し、潤いを感じられるまちづくりを目指します。また、市街地では公園・緑地等の充実、都市の緑化、花や緑による景観づくりなどを進めます。



北上川の水辺



奥州万年の森の植樹祭

世界に誇れる歴史・文化が息づくまちづくり

本市には、先人達から受け継いできた様々な歴史や文化が残っており、武家屋敷や蔵を活かした街並みづくりや観光への活用の取り組みが進められています。

今後も、多種多様な歴史・文化資源を保全・活用し、周辺環境の整備・充実、資源相互の連携強化を進めるとともに、近隣都市との連携による広域的な観光ルートの形成を図り、市民が誇りに思え、世界中から多くの人々が訪れ、奥州市らしさを感じられるまちづくりを進めます。



白鳥館遺跡周辺

(4) 協働によるまちづくり

将来都市像を実現するため、市民・事業者・行政が連携・協働して、まちづくりに取り組んでいきます。

地域にとって貴重な自然環境や景観資源の保全・活用、生活道路や身近な公園、危険な箇所の改善等については、地域住民と力を合わせてきめ細かな取り組みを行います。

人口減少、高齢社会の進展に伴う地域コミュニティの弱まり、相互扶助機能の低下、地域産業の衰退等の問題に対しては、市民、事業者とともに新たな協働のあり方を検討し、その仕組みづくりを進めます。

市民・事業者との協働によるまちづくり

